

CS430T\_01)

〔保管用〕〔保証書付き〕

**住宅用火災（煙式）  
・CO警報器**

**けむびこ**

型番 (4) 102-0101型

**取扱説明書**

一般家庭用 屋内専用

●お問い合わせがとうございます。  
●ご使用前に必ずお読みください。  
●大切に保管してください。

**ご使用前に**

- この商品は検定合格品ですが、消防法で定められた自動火災報知設備には該当いたしませんので、それらの用途には使用できません。
- この警報器は火災による煙を感知して音で警報を発する機能や、住宅で発生する一酸化炭素（以下CO）の発生を検知して音で注意報を発する機能をもっていますが、火災の発生や住宅におけるCOの発生を未然に防止する装置ではありません。火災やCOの発生などによる損害については、責任を負いかねますのでご了承ください。
- 煙感知部の性質上、火災以外の煙や湯気、殺虫剤、スプレー、結露、砂、ホコリ、虫などで警報する場合があります。特に殺虫剤（くん煙式、加熱蒸散式を含む）を使用する前に必ず「10. 殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）殺虫剤を使用するとき」をお読みください。

**お願い**

- この商品は、法律（消防法 9条 2）で住宅への設置および維持について義務付けられています。お客さまでの維持管理をお願いします。
- この商品は、煙感知部の異常や電池切れを検出して自動的に警報する機能をもっています。警報音やランプの点滅にご注意ください。（「5. お知らせ機能について」参照）
- 維持管理のために、1ヶ月に1回程度、点検を行ってください。また1週間以上留守にされた場合も点検を行ってください。（「7. 定期点検」参照）

## 1. 安全上のご注意

ご使用前に必ずお読みいただき、お客さまや他人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。注意事項は、誤った取り扱ひによる危害や損害の程度を、以下の表示で区分しています。

- △危険** 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じる場合が想定される」内容を示します。
- △警告** 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。
- △注意** 誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが生ずる可能性が想定される」内容を示します。

絵表示の内容	
	「一般的な禁止」事項を示しています。
	「水ぬれ禁止」事項を示しています。
	「分解禁止」事項を示しています。
	「必ず行う」事項を示しています。

### △危険

火災警報音が鳴ったら、以下の内容を必ず守ってください。

- 火元を確認し、119番へ通報するなどの適切な処置をしてください。
- 消火が不可能なときは、避難してください。

CO注意報が鳴ったら、以下の内容を必ず守ってください。

- CO濃度が上昇し、短時間で生命が危険な状態になるおそれがあります。

- 注意報の鳴っている部屋にいるときは、すぐに換気してください。
- 部屋の外にいるときは、すぐに入室しないでください。

### △警告

- 分解や改造はしないでください。故障の原因となります。
- 衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 警報器の取り付け、取り外し、定期点検、異常時の点検・処置などを行うときは、安定した踏み台を使い、十分注意してください。転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。
- 定期的（1ヶ月に1回程度）警報停止スイッチを操作して、警報器が正常に動作するか点検をしてください。また、1週間以上留守にされたときは、警報器が正常に動作するか点検を行ってください。火災や故障の原因となります。
- ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。火災や故障の原因となります。

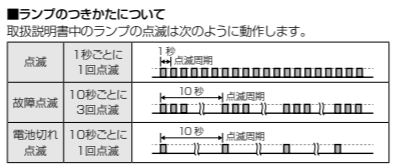
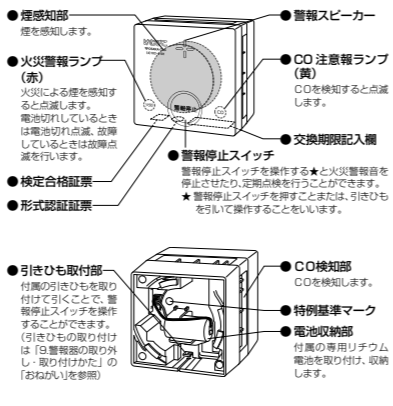
### △注意

- 取付位置を移動させないでください。警報の遅れの原因となります。
- 取付位置を変えなければならないときは、販売店にご相談ください。警報の遅れの原因となります。
- 警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。警報の遅れの原因となります。
- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- 引きひもを引いて警報音を停止するとき、および定期点検をするときは、強く引いたり、ぶら下がったりしないでください。警報器の落下や、ひも切れまたはひもが外れるおそれがあります。
- 警報器を水につけたり、水をかけたりしないでください。故障の原因となります。
- 専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。

## 2. 使用上のご注意

- この警報器は煙を感知して警報しますが、次のような場合は煙を感知できないことがあります。また、室内の空気の流れなどにより、煙感知部に煙が到達しなれば警報しません。
  - ・火のまわりの早い火災 ・爆発的な火災
  - ・電気火災、薬品火災 ・煙の発生が少ない火災
- この警報器は、火災で発生する煙以外の事象（熱、可燃性ガスの発生）は検知できません（住宅で発生するCOを検知する機能はもっています）。
- 日頃、人がいない部屋に取り付ける場合は、あらかじめ警報音が聞こえることを確認してください。
- 次のような場合は警報音が聞こえないことがあります。
  - ・疲労、風邪薬などの服用、飲酒などによる、眼の深い就寝中
  - ・警報器設置場所と人のいる場所の間に音の障害（扉など）がある場合
  - ・周囲の騒音（交通、オーディオ、エアコンなど）が大きい場合
  - ・その他、聴力が弱くなっている場合など
- この警報器は、消防法で定められた自動火災報知設備には該当しないため、それらの用途には使用できません。
- 使用温度範囲外での使用や、ホコリなどが多い場所に取り付けたとき、頻繁に点検された場合、長時間音警報を鳴らされた場合などは電池消費が早くなり、交換期限前に電池切れ警報する場合があります。

## 3. 各部のなまえとはたらき



ランプ表示・音声出力の表現している事象一覧表

ランプ	音声内容	事象
赤 (火災警報) 点滅 消灯	なし	通常動作 (監視中)
点滅	消灯	火災警報 「ウーウーカカンカン 火事です 火事です」
消灯	点滅	CO注意報 「ウーウービッポビッポウーウー一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」
点滅	点滅	火災警報音声 「ウーウーカカンカン 火事です 火事です」
故障点滅	消灯	故障 「ビッビッビッ 警報器故障です」 (約1時間ごと) 「ビッビッ」 (約50秒ごと)
電池切れ点滅	消灯	電池切れ 「ピッ 電池切れです」 「ピ」 (約50秒ごと)
消灯	消灯	交換期限切れお知らせ音声 「交換期限を過ぎています」 ※警報停止スイッチを操作した場合
消灯	点滅	電源投入から30秒間、内部電気回路をチェック中

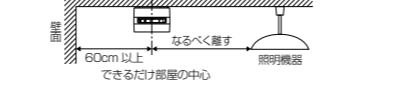
警報ランプは、それぞれ独立して点灯します。  
警報音は、火災警報を優先しています。

## 4. 取付位置について

- この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。居室、寝室、階段、廊下
- 〔台所には、火災、ガスもれ、不完全燃焼の3つが検知できる「住宅用火災・ガス・CO警報器びびこ」をお使いください。〕

## 5. お知らせ機能について

- 設置および維持基準は、政令等で定める基準にしたがい、市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。
- 警報器のスイッチ（点検、警報音停止兼用）が操作しやすい位置に取り付けてください。
- 壁面に取り付ける場合は、警報器の底面が天井面下20cmから30cmまでの範囲にるように取り付けてください。  
※住宅用防災警報器の設置基準である天井から火災警報器の中心まで15～50cmと、CO警報器の設置基準である天井から30cm以内を満たす設置位置となります。
- 天井面に取り付ける場合は、壁やはりから60cm以上離れた位置に取り付けてください。



## 6. 警報音が鳴ったときの処置のしかた

- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。
- 壁面に取り付ける場合は、できる限り離れた壁やはりから60cm以上離してください。

## 取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、警報器を取り付けしないでください。誤作動や故障、または警報が遅れる原因となります。

- 浴室内、水のかかる場所、水漏れがつか場所。感温や電氣的故障の原因になります。
- 温度が0～+40℃の範囲をこえる場所。警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
- タンスなどから60cm以内の場所。
- 空気の流れが激しい場所。換気扇や扇風機の近く。すさまじい強い場所。
- ホコリや虫の多い場所。
- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
- 屋外。屋内専用です。
- 振動、衝撃の激しい場所。セウラの故障の原因となります。
- 焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。センサ寿命が短くなったり、誤報の原因となります。

## 7. 火災による煙が発生したときは

警報器周囲の煙が一定濃度以上になると警報を発します。

ウーウーカカンカン 火事です 火事です

## 住宅で発生する一酸化炭素（CO）を検知したときは

警報器周囲のCOが規定濃度以上になると注意報を発します。

ウーウービッポビッポウーウー一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です

## 火災による煙と不完全燃焼によるCOが同時に発生したときは

火災による煙とCOを、同時に検知したときも警報を発します。警報音は火災警報を優先します。警報停止スイッチを約1秒操作すると、CO注意報音が鳴ります。

ウーウーカカンカン 火事です 火事です  
CO注意報ランプ (黄) 点滅

## 故障しているときは

故障しているとき「ビッビッビッ 警報器故障です」と鳴り、火災警報ランプ（赤）が故障点滅します。その後、約50秒ごとに「ビッビッビッ 警報器故障です」が鳴ります。このとき、警報停止スイッチを約1秒操作すると、「ビッビッビッ」は停止します。※「ビッビッビッ」の停止中に警報停止スイッチを再度操作すると、「ビッビッビッ 警報器故障です」と鳴ります。

ビッビッビッ 警報器故障です  
その後、約50秒ごとにビッビッビッ  
約1時間ごとにビッビッビッ 警報器故障です

## 故障状態では煙やCOを検知できず、火災警報・CO注意報動作をしない場合があります。

※電池切れまたは故障お知らせ中でも、煙やCOを検知した場合、可能であれば火災警報・CO注意報を発します（煙感知部、CO検知部が故障している場合を除きます）。

## 電池切れしたときは

電池切れが近づくと「ピッ 電池切れです」と鳴り、火災警報ランプ（赤）が電池切れ点滅します。その後、約50秒ごとに「ピッ」が鳴ります。このとき、警報停止スイッチを約1秒操作すると、「ピッ 電池切れです」と鳴った後「ピッ」は停止します。※「ピッ」の停止中に警報停止スイッチを再度操作すると、「ピッ 電池切れです」と鳴ります。

ピッ 電池切れです  
その後、約50秒ごとにピッ  
火災警報ランプ (赤) 電池切れ点滅

## 〈自動試験機能〉

電池切れまたは故障した場合、自動的に検知し、お知らせする自動試験機能を備えています。

自動試験機能では、すべての故障は検知できません。ランプが点滅しなくても1ヶ月に1回程度の点検を行ってください。

## 〈警報履歴確認機能〉

警報器が正常に作動しているときに、定期点検から10日間に火災警報・CO注意報または電池切れ・故障があった場合、履歴を表示する機能を備えています。「ピッ 警報器正常です」の後に以下の表示をします。

## 〈鳴動原因表示機能〉

警報など	火災警報ランプ (赤)	CO注意報ランプ (黄)
火災警報	1秒点灯	—
CO注意報	—	1秒点灯
故障お知らせ	1秒間に3回点滅	—
電池切れお知らせ	1秒間に3回点滅	—

※警報器が電池切れまたは故障している場合、この機能は動きません。※専用リチウム電池のコネクタを警報器に接続してから約25分以内については、警報履歴は残りません。

## 交換期限を過ぎたときは

交換期限を過ぎてから警報停止スイッチを約1秒操作すると、「交換期限を過ぎています」と鳴ります。

交換期限を過ぎています 警報停止スイッチ

## 6. 警報音が鳴ったときの処置のしかた

「ウーウーカカンカン 火事です 火事です」と鳴ったときの処置のしかた  
以火災警報ランプ(赤)が点滅または以火災警報ランプ(赤)が点滅とCO注意報ランプ(黄)が点滅

## △危険

消火が不可能なときは、避難してください。

火元を確認し、119番へ通報するなどの適切な処置をしてください。初期消火 119番への通報

## 警報器周囲の煙が一定濃度以下になると、警報音が止まり、ランプが消灯します。

火災以外の煙などで火災警報を発している場合でも、CO注意報ランプ（黄）の点滅の有無を確認してください。  
※火災警報を発している場合は、音声は火災警報が優先されるため、音声によるCO注意報は発しません。

## 2 『ウーウービッポビッポウーウー一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です』と鳴ったときの処置のしかた

CO注意報ランプ（黄）消灯

## 注意報音の鳴っている部屋にいるときは

## △危険

注意報が鳴ったら、すぐに換気してください。CO濃度が上昇し、短時間で生命に危険をおよぼすおそれがあります。

## 1 ドアや窓を開けて換気する。

## 2 COがなくなれば、注意報が停止する。

## 3 原因を調べる。

- ふとんなどから火災が発生していないか確認してください。
- 自動車の排気ガスが室内にこもっていないか確認してください。

## 部屋の外から注意報音に気づいたときは

## △危険

注意報の鳴っている間は、部屋の外から、すぐに入室しないでください。CO中毒のおそれがあります。

## 1 部屋に入らない。

室外からドアや窓を開けられるときは、ドアや窓を開けて換気してください。

## 2 COがなくなれば、注意報が停止する。

## 3 部屋に入り、CO注意報ランプ(黄)の消灯を確認する。

## 処置をしても、注意報音が鳴りやまないときは



## 3 火災やCO以外で火災警報音やCO注意報音が鳴ったときの処置のしかた

### 火災以外の煙で火災警報音が鳴ったとき

火災警報音を止めたいとき

警報停止スイッチを操作してください。警報音が停止します。  
※警報器周囲の煙が一定濃度以下になっていない場合は、5分後に再び火災警報を発します。

- 1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。
- 2 警報器周囲の煙が一定濃度以下になると、警報音が停止する。

### CO以外の空気の汚れて、CO注意報が鳴ったとき

- 1 ドアや窓を開け、しばらく換気を続ける。
- 2 警報器周囲のガスが規定濃度以下になると、注意報が停止する。

※警報停止スイッチの操作では、注意報音を止めることはできません。換気を行うなど空気の入れ替えを行ってください。

### 警報音が鳴ったり、ランプが点灯した原因について

以下の原因が考えられますので、調べてください。

- 火災警報・CO注意報共通
- スプレー式殺虫剤やヘアスプレーなどを、警報器にかけていませんか。
- タリコの煙を警報器に吹きかけていませんか。
- 線香の煙が警報器にかかっていますか。
- シンナー、ベンジンなどの溶剤を大量に使用していませんか。
- アルコール類やくん煙式、くん蒸式の殺虫剤が直接かかっていますか。

- 長い間閉め切っている部屋に設置していませんか。建材などから発生する成分の作用によって、警報しやすくなる場合があります。
- 焼き魚の煙などが警報器にかかっていますか。
- 換気が十分でない状態で、湯沸器を使用していませんか。
- 自動車の排気ガスが室内にこもっていませんか。
- 炭火や練炭を使用していませんか。
- 警報器が結露していませんか。

- 火災警報
- 湯気が直接かかっていますか。
- 調理の煙や水蒸気などが警報器にかかっていますか。
- 砂、ホコリ、虫などが警報器の煙感知部に侵入していませんか。

＜CO注意報＞

- みりんなどの調味料成分を含んだ蒸気が、警報器に大量にかかっていますか。

※警報作動原因を取り除いてください。（「11. 異常時の点検・処置」参照）

## 7. 定期点検

正常に動作することを確認するために、1ヶ月に1回程度定期点検を行ってください。  
（1週間以上留守にされた場合も点検を行ってください。留守中の電池切れ警報を、確認できないおそれがあります。）

### 動作機能を確認する

- 1 警報器が警報作動中や警報音停止中でないことを確認する。
  - テスト機能を使って確認する
- 2 警報停止スイッチを押す（約1秒）、または引きひもを引く（約1秒）。
  - 「ピッ」と鳴り、全てのランプが点灯し、「警報器正常です」が鳴ると正常です。
  - 10日以内に火災警報・CO注意報または電池切れ・故障があった場合は、履歴を表示します。（「5. お知らせ機能について」参照）



### 警報音を鳴らして確認する

- 2 警報停止スイッチを約3秒間長押しする。または引きひもを約3秒間引く。
    - ①「ピッ」「ピッピッ」と鳴ります。
    - ②火災警報ランプ（赤）が点滅し、「ウーウーカンカン」火事です 火事です」と鳴ります。
    - ③CO注意報ランプ（黄）が点滅し、「ウーウーピッポッピッ」一酸化炭素を検知しました 危険です 危険です」と鳴ります。
    - ④「ピー」と鳴り、終了すれば正常です。
- ◆下記の異常などがないか確認できます。
  - ◆COセンサおよび煙検知部の異常 ●電源異常

### （正常に動作しない場合は）

動作確認をしても警報音が鳴らないなどの異常があった場合は、「11. 異常時の点検・処置」を参照してください。

故障状態では煙の感知やCOの検知ができず、火災警報やCO注意報動作をしない場合があります。

## 8. お手入れのしかた

警報器側面のスリット（煙感知部）にホコリやくもの巣がつくと、正しく警報しない場合があります。  
警報器がより良い状態で動作するようにお手入れをおすすめします。

- ① 警報器を取り外してください。（「9. 警報器の取り外し・取り付けかた」参照）
- ② 警報器および取付部近の壁面または天井面の汚れをふき取ってください。布を水または石けん水に浸し、よく絞ってからふき取ってください。
- ③ 本体の表面がよく乾いてから取り付けてください。（「9. 警報器の取り外し・取り付けかた」参照）
- ④ 本体を取り付けてから、正常に動作することを確認してください。（「7. 定期点検」参照）

### ⑤⑥⑦⑧

- お手入れするときは、警報器の内側に水が入らないようご注意ください。
- アルコール性洗剤、塩素系漂白剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと、警報器本体の表面を傷めることがありますので使用しないでください。
- お手入れ後、煙感知部に異物（糸くず、水など）が残っていないか確認してください。

## 9. 警報器の取り外し・取り付けかた

取り外しかた  
押し付けながら、左（反時計回り）に止まるまで回す。

※取付ねじ1本で掛っ掛けて取り付けている場合は本体を持ち上げ取り外してください。

### 取り付けかた

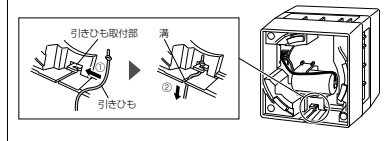
- ① 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。
  - 警報器の初期合わせ位置
  - 取付けのポイント位置合わせどししを合わせる。
  - 位置合わせ
  - ※図は前部から見えます。
- ② 本体を押し付けながら、右（時計回り）に回して警報器を固定した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を垂直位置にする。
  - 位置合わせ



※角度の微調整の際、警報器を左（反時計回り）に回し過ぎて、「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれがあります。

### ⑨⑩⑪⑫

結び目を引きひも取付部に引っ掛けて、引きひもを溝に通す。



## 10. 殺虫剤（くん煙・くん蒸・噴射式）を使用するときは

殺虫剤を使用する際は、警報器を取り外し殺虫剤がからない場所に置くか、ポリ袋で覆ってください。誤作動のおそれがあります。噴霧が終わったら、換気後、必ず元の位置に戻してください。また、ポリ袋で覆った場合は必ずポリ袋を取り除いてください。

## 11. 異常時の点検・処置

交換などを依頼される前に、次の点検および処置をしてください。下記の点検・処置をしても異常があるときは、販売店（リース取扱店）もしくは最寄りの大阪ガスお客さまセンターにご連絡ください。

こんなときは	ここを確認して	こう処置してください
火災やCOが発生していないのに、警報音や注意報音が鳴る。	火災以外の煙や、CO以外の空気の汚れが原因ではありませんか？（「警報音が鳴ったり、ランプが点灯した原因について」参照）	室内を換気してください。頻繁に警報する場合は、取付場所に問題がある可能性があります。販売店（リース取扱店）にご連絡ください。
煙感知部に煙が残っていたり、砂やホコリ、虫などが入っていませんか？	煙感知部に煙が残っていたり、砂やホコリ、虫などが入っていませんか？	煙感知部にうちわ、ドライヤー（冷風）などで風を送り、砂やホコリ、虫を取り除いてください。それでも停止しない場合は専用リチウム電池を抜き、販売店（リース取扱店）にご連絡ください。
約10秒ごとに火災警報ランプ（赤）が点滅する。約50秒ごとに「ピッ」または「ピッピッ」が鳴る。	警報停止スイッチを操作したとき、「ピッピッ」警報器故障です」のメッセージが鳴りませんか？	警報器の故障が考えられます。販売店（リース取扱店）にご連絡ください。（「5. お知らせ機能について」参照）
警報停止スイッチを押したり、引きひもを引いても動作しない。	引きひもが正しく取り付けられていますか？	専用リチウム電池が消耗しています。販売店（リース取扱店）にご連絡ください。（「5. お知らせ機能について」参照）
専用リチウム電池が確実に取り付けられていますか？	専用リチウム電池が確実に取り付けられていますか？	専用リチウム電池が消耗しています。販売店（リース取扱店）にご連絡ください。（「5. お知らせ機能について」参照）
専用リチウム電池が切れていませんか？（電池切れ警報をしていませんか？）	専用リチウム電池が切れていませんか？（電池切れ警報をしていませんか？）	電池コネクタを確実に接続してください。（それでも動作しない場合は、販売店（リース取扱店）にご連絡ください。）

電池が切れているとき、またはリチウム電池を取り外した状態では煙やCOを検知できず、火災警報・CO注意報動作をすることができませんので注意してください。

## 12. アフターサービス

この警報器の保証期間は、お買い上げ日から5年です（尚、リース契約の場合は、この限りではありません。「リース契約書」にて、ご確認ください）。保証書内容をよくお読みの後、お買い上げ日、お買い上げ日か記載されている「警報器登録票」または「リース契約書」とともに大切に保管してください。保証期間経過後の故障、電池切れについては、無料修理できません。有料での本体交換となります。要する費用は全てお客さまの負担とさせていただきます。アフターサービスについてご不明な点がある場合や、引越しやお部屋の模様替えなどで警報器を移動される場合は、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスお客さまセンターまでご連絡ください。

## 13. 機器交換期限

この警報器の交換期限は10年です。警報器本体には、交換期限を西暦と月で記入しています。ご購入時、お取り付け時にご確認ください。交換期限を過ぎたものは、電池切れなどにより正常な動作をしないおそれがありますので、新しい警報器とお取り替えください。交換期限は保証期間とは異なり、交換期限内であっても保証期間を過ぎている場合は、無料修理はできませんのでご注意ください（リース契約の場合を除く）。

### ■廃棄について

#### リース契約の警報器の廃棄

交換期限が過ぎた警報器は、販売店（リース取扱店）にて回収いたします。

#### お買い上げいただいた警報器の廃棄

- 販売店（リース取扱店）に、廃棄を依頼される場合  
販売店（リース取扱店）の店頭で回収いたします。
- お近くの販売店（リース取扱店）にお持ち込みください。
- お客さまで廃棄される場合  
お住まいの市町村の廃棄物の処理方法にしたがってください。  
\*必ず専用リチウム電池を取り出して廃棄してください。（分別方法については以下参照。）

警報器と専用リチウム電池の分別のしかた
この警報器は専用リチウム電池を使用しています。 警報器本体を取り外し、以下の要領で専用リチウム電池を取り出してください。 専用リチウム電池のコネクタを引き抜き、専用リチウム電池を取り出してください。



警告  
取り出した専用リチウム電池のコネクタは、ショートしないようテープなどを巻いてください。  
リチウム電池の廃棄を誤ると、ショートして発熱・破裂・発火することがあり、ケガをしたり、火災に至るおそれがあります。

## 14. 登録

この警報器は、コンピュータに登録して管理させていただきます。登録は取り付け時またはガスの開栓時に行い、登録済みの警報器には交換期限を西暦と月で記入していきますのでご確認ください。  
また、交換期限の記入がない警報器は未登録の場合がありますので、販売店（リース取扱店）または、最寄りの大阪ガスお客さまセンターまでご連絡ください。  
交換期限が満了する約1ヶ月前に、登録されている警報器については、当社よりお知らせします。交換期限を過ぎたものは、新しい警報器にお取り替えください。

## 15. 仕様

項目	仕様
型番	(4) 102-0101
型式番号	住警第2022～5号
電源	専用リチウム電池 CR17335EG
電池寿命	約10年 <sup>※1</sup>
定格	DC3V、300mA
使用温度範囲	0℃～+40℃（結露しないこと）
寸法	幅75×高さ75×奥行52mm（突起部を除く）
質量	約145g（専用リチウム電池含む）
付属機能	故障お知らせ機能、電池切れお知らせ機能、交換期限お知らせ機能
付属品	取付ベース（1個。本体に取り付け）、取付ねじ（2本）、石膏ボードピン（5本）、引きひも（1本）、取扱説明書（本書1枚、保証書付）、リースシール（1枚）、専用リチウム電池（1個）
種別	光電式住宅用防火警報器（CO反応式 <sup>※2</sup> ）
感知方式	煙感知方式
型	電池方式、2種、自動試験機能付
表示・発報方式	即時警報型・自動復帰式 火災警報ランプ（赤）点滅 音声合成音（70dB(A)/m以上）
検知対象ガス	住宅で発生する一酸化炭素（CO）
検知方式	電気化学式
作動条件	200ppmのCOに対し、4分以内に注意報
公称作動濃度	100ppm
表示・発報方式	即時警報型・自動復帰式 CO注意報ランプ（黄）点滅 音声合成音（70dB(A)/m以上）

- ※1 10年間の寿命を保証するものではありません。ご使用環境の温度、湿度、ホコリの量や、点検などのご使用条件によって短くなる場合があります。
- ※2 一酸化炭素濃度を約100ppm検知した場合、煙感度を通常設定より約2倍に高める機能です。

火事発見時は最寄りの消防署へ通報してください。（電話 119）

大阪ガスのお問い合わせ先	<お客さまセンター>
■大阪事務所 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37	☎0120 (0) 94817
■南都事務所 〒590-0973 堺市堺区住吉崎町2-2-19	☎0120 (3) 94817
■北都事務所 〒569-8589 高槻市藤の里町39-6	☎0120 (5) 94817
■兵庫事務所 〒650-0044 神戸市中央区南川崎1丁目8-2	☎0120 (7) 94817
■京都事務所 〒600-8815 京都市下京区堂室寺栗田町93	☎0120 (8) 94817
☐FAXによるお問い合わせ 〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37	FAX 0120 (6) 94817

インターネットでのお問い合わせやお手続き  
大阪ガス 検索 <https://www.osakagas.com.jp/>

受付時間は、月曜～土曜 9:00～19:00、日祝日 9:00～17:00 となっております。  
お電話のかけ間違いのないようお願いいたします。  
所在地・電話番号などは変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。

## 大阪ガス株式会社

住宅用火災(煙式)  
・CO警報器

型番 (4)102-0101 型



取付説明書

施工される方へ

1 安全上のご注意

施工前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。  
注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記の表示で区分しています。

**警告** 誤った取り扱いをすると「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

**注意** 誤った取り扱いをすると「傷害を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を示します。

警告

- 警報器の取り付け・取り外し時などは、安定した台に乗って作業を行ってください。転倒してケガをするおそれがあります。
- 警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、警報器の取り扱いには十分に注意してください。故障や誤作動の原因となります。

注意

- 専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。
- 天井面に取り付ける場合、取付ベースの真下で取り付け作業を行わないでください。ねじの締め付け時に天井材のくすが目に入るおそれがあります。目に入った場合は、ただちに洗い流してください。
- 付属の取付ねじを使用してください。両面テープなどで取り付けると、落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 取付ベースや警報器本体の取り付けは、確実に行ってください。落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- 警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- 引きひもを強く引いたり、引きひもにぶらさがないでください。転倒や落下のおそれがあります。

2 施工される方へのお願い

- お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくため、取付説明書をよくお読みになり、指定された取り付けを行ってください。
- お客さまのご要望される設置場所、警報器の種類が各市町村の火災予防条例に適合しない場合は、お客さまに各市町村の火災予防条例に適合するための設置場所、警報器の種類を説明の上、火災予防条例に適合する設置場所、適合する種類の警報器を設置いただくようにご理解を得てください。  
例えば  
火災予防条例に定める設置場所に警報器を設置しない場合  
火災予防条例に定める設置場所で条例に定められていない警報器を設置されている場合など
- 取付終了後に、「5. 取り付け後の動作確認」にしたがって、動作確認を行ってください。なお、動作不良の場合は交換してください。
- 取付終了後、お客さまへ下記の内容を説明してください。

1. 動作確認結果の説明。
2. 取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書は「警報器登録票」または「リース契約書」とともに保管していただくことをお願い。
3. 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
  - ① 火災警報時のとるべき処置の説明。
  - ② CO 注意報時にとるべき処置の説明。
  - ③ 動作確認を行い、点検方法、点検頻度(1ヶ月に1回程度および1週間以上留守にされた場合)、およびお客さまにご自身で点検をしていただく必要があることの説明。
  - ④ 電池切れ警報、故障警報が発生する場合。
  - ⑤ 火災以外で火災警報が発生する場合。
  - ⑥ 警報器の移設、分解の禁止。
4. 保証期間がお買い上げ日から5年であること(リース契約を除く)、交換期限がお買い上げ日から10年であることの説明。
5. リースの場合、リース契約書をご本人または配偶者に記入いただき、リースの内容および解約時についての説明。

3 取り付け前の確認

3-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

警報器本体…1個		取付ねじ(木ねじ: 3.5 x 25mm) …2本	
取付ベース…1個		引きひも(点検ツマミ付) …1本	
石膏ボードピン…5本		専用リチウム電池…1個	
取扱説明書(保証書付) …1枚		リースシール…1枚	

3-2 設置する前に

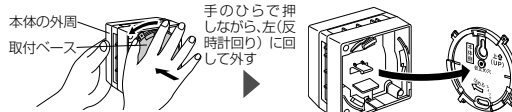
警報器本体・保証書への必要事項の記入

- ① 本体の交換期限記入欄に、お買い上げ日から10年後(西暦)の同月を記入する。
- ② 付属の取扱説明書(保証書付)にお取り付け年月日・お客さま情報・販売店情報を記入する。

取り付ける前に

警報器本体から取付ベースを取り外す

本体を持ち、取付ベースを手のひらで押しながら、左(反時計回り)に回して、取付ベースを外してください。



おたのしみ

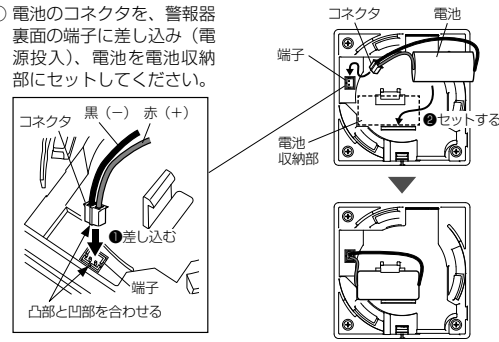
取付ベースを引っ張りながら回さないでください。取り付け時の本体落下防止の安全ロック機構が働くため、取付ベースは外れません。

電源を入れる

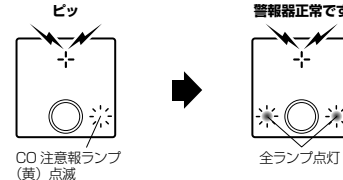
注意

- 専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。
- コネクタの接続にドライバーなどを使用しないでください。コネクタが破損したり、専用リチウム電池がショートする原因となります。
- リード線の赤(+)と黒(-)の向きを間違えないように、確実に差し込んでください。
- 専用リチウム電池の外装フィルムは電池を保護するものです。はがさないでください。

- ① 電池のコネクタを、警報器裏面の端子に差し込み(電源投入)、電池を電池収納部にセットしてください。



- ② 「ピッ」と鳴り、約30秒間、CO注意報ランプ(黄)が点滅した後、全てのランプが点灯してから消灯し、「警報器正常です」とお知らせします。



引きひもの取り付け(必要な場合のみ)

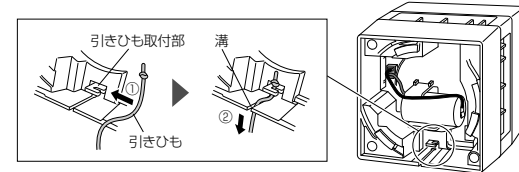
警告

警報器を、壁面に取付ねじ1本で引っ掛けて取り付ける場合、または、天井面に取り付ける場合は、引きひもを取り付けしないでください。引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。

注意

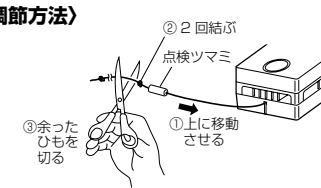
引きひもを取り付けるとき、取付部が引かれて警報音が鳴ることがありますので、注意してください。

結び目を引きひも取付部に引っ掛けて、引きひもを溝に通す。



引きひもの長さの調節方法

- ① 点検ツマミを上に移動させる。
- ② 適当な長さとなる部分で2回結ぶ。
- ③ 点検ツマミの先の余ったひもを切る。



確認

引きひもを取り付けた後は、数回引きひもを引き、正常に操作できることを必ず確認してください。

3-3 取付位置の確認

※ 設置および維持基準は、政省令で定める基準にしたがい、各市町村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異なる場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認してください。

おたのしみ

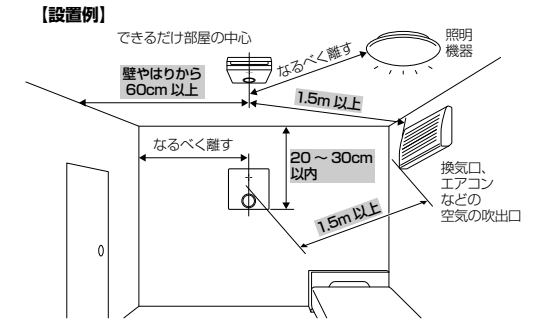
設置場所は、お客さまとよく相談してお決めください。

注意

正しい取付位置に取り付けてください。取り付けてはいけない場所に取り付けると、火災警報およびCO注意報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。本警報器はガス機器の設置基準及び実務指針に記載されているガス警報器の設置場所には設置できません。

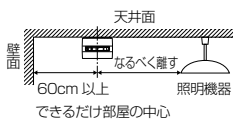
正しい取付場所について

- この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。居室、寝室、階段、廊下

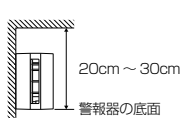


- 警報停止スイッチ(点検、警報音停止兼用)が操作しやすい、ランプが見やすい位置に取り付けてください。

- 天井面に取り付ける場合は、壁やはりから60cm以上離れた位置に取り付けてください。



- 壁面に取り付ける場合は、警報器の底面が天井面下20cmから30cmまでの範囲にるように取り付けてください。

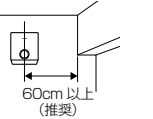


- ※ 住宅用防災警報器の設置基準である天井から火災警報器の中心まで15~50cmと、CO警報器の設置基準である天井から30cm以内を満たす設置位置となります。

- 換気口など、空気の出出口から1.5m以上離してください。




- 壁面に取り付ける場合は、できるだけ壁やはりから60cm以上離してください。



## 取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。  
警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。  
感電や電氣的故障の原因になります。
- 温度が0℃～+40℃の範囲をこえる場所。  
警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。
- タンスなどから60cm以内の場所。  

- ホコリや虫の多い場所。
- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。
- 屋外。  
屋内専用です。
- 換気扇、扇風機、ドアの近くやすきま風の強いところなど空気の流れが激しい場所。  
警報が遅れたり、検知できないことがあります。
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。
- 振動、衝撃の激しい場所。  
センサの故障の原因になります。
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。  
センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

## 4 取り付けかた

### 取付場所の違いによる取付方法及び引きひもの取付可否

取り付けを行う面と壁面の材質により、取付方法は異なります。  
必ず、指定された方法による取り付けを行ってください。

ここを確認して		こう取り付けてください	
取付面	壁面の材質	取付方法	引きひも取り付け
壁面	木質・石膏ボード	壁面固定 (取付ねじ2本)	可能
	石膏ボード	壁面固定 (石膏ボードピン4本)	可能
天井面	木質	壁面引っ掛け (取付ねじ1本)	不可
	石膏ボード	天井面固定 (取付ねじ2本)	不可

### 警告

- 木質などの壁面に壁掛け取り付け(取付ねじ1本に引っ掛けて取り付け)をする場合は、引きひもは使用しないでください。  
引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガをするおそれがあります。
- 天井面に取り付ける場合は、引きひもは使用しないでください。  
引きひもを強く引くと、本体が落下するおそれがあります。

### 注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 取付強度を保持するため、取付ねじ、石膏ボードピンは根元まで差し込んでください。万一、ゆるんだ場合は、取付位置をずらして付け直してください。
- 取り付けには、両面テープを使用しないでください。
- 天井面に取り付ける場合は、石膏ボードピンを使用しないでください。

### おたかい

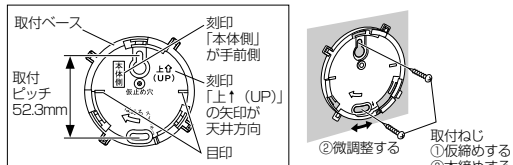
- 天井面に固定する場合は、補強材が通っている箇所に取り付けしてください。
- 石膏ボードに取付ねじで取り付けの場合、必要に応じて市販の石膏ボード用アンカー(φ3.5mm木ねじ用)を使用してください。

## 壁面固定(取付ねじ2本)の取り付け、または壁面固定(石膏ボードピン4本)の取り付け

### 1. 取付ベースの取り付け

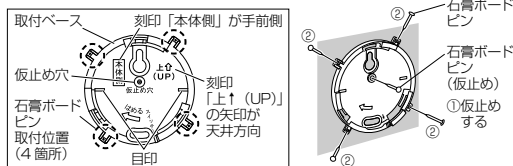
#### A. 取付ねじ2本での取り付け

- 取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを取付ねじ(2本)で壁面に仮締める。
- 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- 取付ねじ(2本)を本締める。  
※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認してください。



#### B. 石膏ボードピン4本での取り付け

- 石膏ボードピンを、仮止め穴に差し込んで仮止めする。
- 取付ベースの目印が壁面の目地などと平行になるように、取付ベースを石膏ボードピン(4本)で壁面に固定する。  
※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認してください。

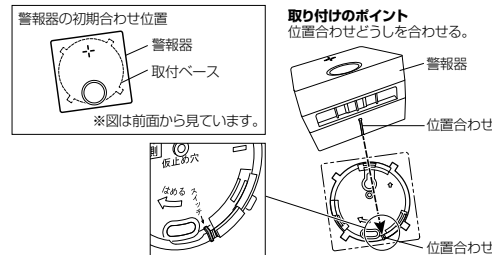


### 2. 警報器の取り付け・微調整

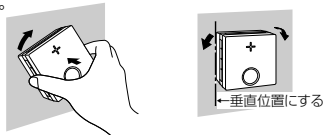
#### おたかい

引きひもを取り付けている場合は、警報器を取り付けた後で引きひもが引けることを確認してください。(引きひもの取り付けについては、表面「引きひもの取り付け(必要な場合のみ)」参照)

- 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



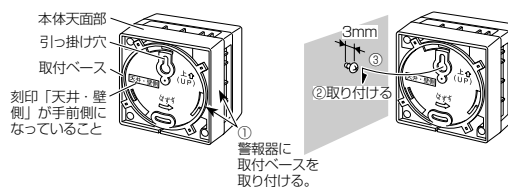
- 本体を押し付けながら、右(時計回り)に回して警報器を固定した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を垂直位置にする。



※ 角度の微調整の際、警報器を左(反時計回り)に回し過ぎて、「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれがあります。

## 壁面引っ掛け(取付ねじ1本)の取り付け

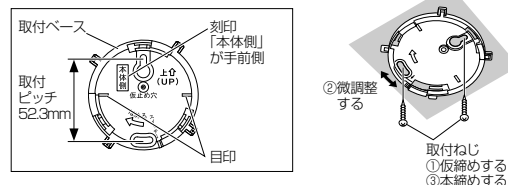
- 取付ベースの刻印「スイッチ」と警報器のスイッチの位置を合わせながら、取付ベースの引っ掛け部の手前に警報器表面の突起(3箇所)を合わせて、取付ベースを回して取り付ける。
- 取付ねじ(付属)を壁面から3mm出るように取り付ける。  
※ ねじを完全に締め付けた状態から1回転半戻すと、約2～3mmになります。ねじが出過ぎると、引っ掛けたときに取付ベースの裏面が破損するおそれがあります。
- 本体の引っ掛け穴部分を取付ねじに引っ掛ける。
- 本体が確実に引っ掛かっていることを確認する。



## 天井面固定(取付ねじ2本)の取り付け

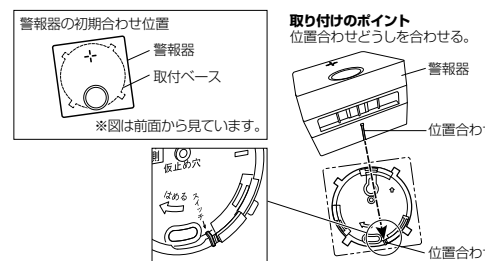
### 1. 取付ベースの取り付け(取付ねじ2本)

- 取付ベースの目印が天井の目地などと平行または垂直になるように、取付ベースを取付ねじ(2本)で天井面に仮締める。
- 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- 取付ねじ(2本)を本締める。  
※ 取付ベースが、天井面に密着して固定され容易に脱落しないことを確認してください。

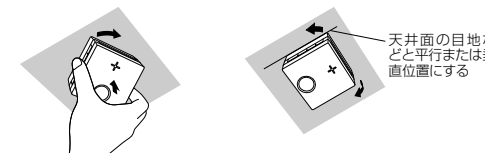


### 2. 警報器の取り付け・微調整

- 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



- 本体を押し付けながら、右(時計回り)に回して警報器を固定した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を天井面の目地などと平行または垂直位置にする。



※ 角度の微調整の際、警報器を左(反時計回り)に回し過ぎて、「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれがあります。

## 5 取り付け後の動作確認

### 警告

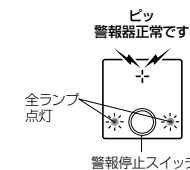
- ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わないでください。  
火災や故障の原因となります。

- 警報器が警報動作中や警報音停止中でないことを確認する。

#### テスト機能を使って確認する

- 警報停止スイッチを押す(約1秒)、または引きひもを引く(約1秒)。

- 「ピッ」と鳴り、全てのランプが点灯し、「警報器正常です」が鳴ると正常です。



#### 警報音を鳴らして確認する

- 警報停止スイッチを約3秒間長押しする。または引きひもを約3秒間引く。

- 「ピッ」「ピッピッ」と鳴ります。
- 火災警報ランプ(赤)が点滅し、「ウーウーカンカンカン火事です火事です」と鳴ります。
- CO注意報ランプ(黄)が点滅し、「ウーウーピッピッピッピッー酸化炭素を検知しました危険です危険です」と鳴ります。
- 「ピー」と鳴り、終了すれば正常です。

◆ 下記の異常などがないか確認できます。

- COセンサおよび煙検知部の異常 ● 電源異常